

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
所 長	<p>開会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今回は、天地人サイエンスプロジェクトの実行委員として3名の方が臨席され、検討に加わっていただくことになった。 ○ 昨年、県地区理科教育センター連絡協議会が小学校教員を対象に意識調査を実施し結果が求められた。また、3年ぶりに全国学力・学習調査（理科）が実施され結果と考察が周知された。 ○ それらの結果を踏まえ、佐渡理科教育センターがどのように理科教育に貢献していくか佐渡の地域特性を洗い出し検証していくこととなる。 ○ 令和7年度事業報告及び8年度事業計画を検討いただき、先生方に役立つ、魅力ある事業となるようご意見をいただきたい。
事務局（古塩）	<p>(1) 令和7年度実施事業報告〔資料・スライドに基づき説明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研修事業（教職員関係の勉強会） ② 児童生徒・一般対象事業（市内子どもたち向けの事業） ③ 研究事業（研究関係団体への協力） ④ 奉仕事業（おたより等周知活動） <p>○ 理科教育センター事業には上記の4つの柱がある。概要及び要点は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 指導基礎研修会：年間8回実施。人手不足等で学校外で研修を受けることが難しくなっている。 2) ワンポイント研修：理科指導のアイデア・教材・ICTなどの研修。 3) 研究協力員による理科指導情報交流研修会：今年度6回計画し、5回実施。研究協力員の先生が、実践した授業やこまり事解決の話題などを取り上げ、相互研修した。 4) 上記研修会の参加者数は、コロナ禍による減少の後、タブレットの導入で一時ICT研修の需要が高まったが、その後減少傾向。職員数の減少や小学校での理科専科の導入などが要因か。 5) 佐渡学研修会：専門家から指導してもらおう研修。6回実施。学校ではできない研修内容で、参加者数は総計で横ばい。続けて実施の研修で参加者が少ない傾向。 6) 科学体験教室（要請講座）：15回受け入れ。土日にも対応。増加傾向で他の研修にも支障が出始めており、抑制策が必要か。 7) 標本同定会：科学研究へのサポート。

<p>(続き)</p>	<p>8) 子どものための科学祭り：参加者数は1,000人を突破。「佐渡島SDGs天・地・人サイエンスプロジェクト」(以下、天地人SP)と同日開催した。理科教育センターとしては関係団体と連携のもと、①科学作品展、②おもちゃコンテスト、③科学体験教室を実施。作品展は出品数(特に標本)が若干減ったが、レベルは高い。</p> <p>9) 児童生徒科学研究発表会：発表数は中学校10、小学校28(低学年含む)。小学生でもICTを上手に使いこなしていた。</p> <p>10) 事業アンケートの結果：概ね肯定的な評価。ただし、少数ながら疑問点を指摘した評価もあって「たいへん良い」は少し減った。</p>
<p>事務局(古塩)</p>	<p>(2) 令和8年度の運営について(案) [資料・スライドに基づき説明]</p> <p>① 運営の基本方針(案)</p> <p>② 運営の重点(案)</p> <p>③ 事業の内容(案)</p> <p>④ 予算(案)</p> <p>○ 令和7年度からの主な変更点は下記のとおり。</p> <p>1) 基本方針は前年度を踏襲。特に県内各理科センターとの連携をさらに強化する。</p> <p>2) 運営の重点：学校現場の実情を把握し、各種実態調査結果を踏まえた内容の文言に変更。</p> <p>3) 事業内容の4本柱：前年度を踏襲するが、細かな内容改善を図る。</p> <p>4) 授業力向上研修：研究協力員による研修は、4月23日開催予定の研究協力員会議で内容決定。</p> <p>5) 佐渡学研修：既存の研修内容の見直しを行うとともに、農業分野を対象とした新規の研修会を加え7回実施の予定。</p> <p>6) 児童生徒・一般対象事業：各事業を前年度並みに実施。「子どものための科学祭り」は「天地人SP」から前年度と同様、同日開催の要望があり本日検討。</p> <p>7) 子どものための科学祭り：前年度並みに実施する。個人情報保護と経費節減などの観点から当日配布していたパンフレット(出品作品・授賞作品一覧)は廃止する。</p>
<p>運営委員1</p>	<p>【質疑・応答】</p> <p>・科学祭り・天地人SPの行事日程について</p> <p>昨年度の「子どものための科学祭り」において、おもちゃコンテストの審査員を務めた。午後から2時間くらいのスケジュールで実施されたが、参加する児童が、同日に開催される「天地人SP」の体験教室やワークショップに参加できなかった。同じ会場にしながら、子ども達に参加できないのはもったいないので、日程の調整を検討して欲しい。</p>

(続き)	→ 検討したい。(オブザーバー)
運営委員 2	<p>・<u>新年度の事業予算について</u></p> <p>私自身が担当していた時代には、予算は700万円ほどあった。今は7分の1に減っている。教育委員会に話をしたかったが、本日は課長が欠席なので伝えておいて欲しい。1/7でこれだけ頑張ってもらっている。</p> <p>→ 理科教育センターのいろいろな教材が古くて使えない、またICTを支える様々な教材も買えないという実態がある。いろいろな方々が声を上げていただくと有難い。(事務局)</p>
オブザーバー 1	<p>(3) <u>諸連絡・その他</u></p> <p>○「<u>天地人SP</u>」の事業実施について</p> <p>昨年度「佐渡市子どものための科学祭り」と同日開催させてもらった。「天地人SP」は佐渡市の子ども達にサイエンスの魅力と可能性に触れる機会を届けたいという思いで始めた。金井小中学校出身の私(本間)と金井中学校の先輩である浅島誠先生、父君が金井中出身の本間希樹先生の3者が佐渡市の子ども達のために何かできないかと話合ったのがきっかけ。いろいろな方々の協力を得て令和4年から始めた。できれば佐渡の先生方の活動と連携してやりたい。昨年度「子どものための科学祭り」と同時開催でき有難かった。行事の時間が重なるなど課題もあるが、今後も連携しながら相互に影響しあえるよう協力をお願いしたい。</p>
オブザーバー 2	<p>○「<u>天地人SP</u>」の本年度事業計画書について〔資料に基づき説明〕</p> <p>前年度同様「佐渡市子どものための科学祭り」と同日開催で実施したい。佐渡の子ども達に向けて中身を充実させ、昨年度の反省を踏まえ参加の時間が重ならないように調整する。同時に新潟日报社は県内のサイエンスに関心のある子ども達を集め「子どもフィールドサイエンス」としてジオパークをまわるなどの計画もあり併せて説明する。</p> <p>「天地人SP」としては、1日目(9月12日)にアミューズメント佐渡内の文化・情報センターを会場に50人くらいの参加で「サイエンス教室」を計画している。昨年度は「サイエンス教室」と「ワークショップ」が微妙にずれていたため、今年度は13時30分から3限制に分けた。ただし、「科学祭り」の「おもちゃコンテスト」の時間帯との関係についてこの後検討が必要。プログラムは1限が新潟大学の崎尾均先生の「植物のしくみ」、3限が新潟大学理学部の小川翔子先生の「宇宙のふしぎ」を予定。同時に1限と3限に大ホールのホワイトエを会場に「サイエンスワークショップ」を実施する。昨年人気のあった新潟大学の天体望遠鏡の作製の他、2大学に依頼を予定している。基本的にはキットの準備が必要なので、事前申込みとする。</p>

<p>(続き)</p>	<p>昨年との違いは2限の14時25分～15時10分に大ホールで佐渡のサイエンスをテーマに親子で参加できる全員参加型のクイズと解説ができないかとの計画。「佐渡まるごとサイエンスライブ」(仮題)のタイトルでクイズやミニトークなど、楽しみながら参加できる形にしたい。</p> <p>2日目(9月13日)の午前中は、佐渡の魅力を講演会形式で伝える「佐渡塾」の取り組みと連携。大ホールで「佐渡とサイエンスについての繋がり」の3講演を予定している。1コマ目は本間芳和先生の「佐渡と科学技術のつながり」、2コマ目は浅島誠先生の「生物のお話」、3コマ目は畔柳昭雄先生の「加茂湖」である。これは子ども達というより佐渡の大人の方々が対象。子ども達と来る親御さん方に声掛けして参加願いたい。午後には、「サイエンスワークショップ」を2～3コマ実施する。併せて佐渡市との連携で「脱炭素」と「再エネ」の取組についてホワイエで展示を行う予定。</p> <p>「子どもフィールドサイエンス in 佐渡」の参加者は1日目(9月12日)の午後に来島してすぐアミューズメント佐渡へ直行、夜は潮津の里で「サイエンストーク」などに参加する予定。2日目(9月13日)は二見半島のジオパークでフィールドワークを行う。</p> <p>広報については夏休み前に具体化することとし、佐渡の子ども達向けの広報と県内の子ども達向けの広報を分けて示したい。佐渡市と連携し、6月末～7月初めくらいの広報を予定している。</p>
<p>運営委員 2</p>	<p><u>○「天地人SP」の開催趣旨などについて</u></p> <p>昨年、「宇宙エレベーター」、浅島誠先生、本間芳和先生の講義を聞いた。浅島先生の話では佐渡で新種が見つかるかもしれないと言っていたが、実際、梅津川河口で新種のゴカイが見つかった。佐渡の自然をよく知って予見されすごいと思った。本間芳和先生のお話は私なりの感想だが、手品となっていた。事物現象は手品にして種明かしして終わりではいけない。手品は子ども達に考える「とりつくしま」を与えない。私だったらLEDランプが点くビーカーの回りを布で覆って隠す。そうすると子ども達は何かあるのではないかと「とりつくしま」ができる。宇宙エレベーターは何を言いたいのか分からなかった。本間希樹先生は欠席であったが、宇宙エレベーターそのものが分かっていると感じた。</p> <p>事業計画の経緯のところで「佐渡市の子ども達にサイエンスの魅力と可能性に触れる機会を届けよう」とある。これは上から目線。子ども達が主体だから、子ども達といっしょに学ぼうとを書かないと「天地人SP」のメンバーの気持ちが変わらないだろう。当日のワークショップ、で隣に座った男の子が私に屈折望遠鏡の仕組みを教えてくれた。子どもが人に教えるということは自分のものになっている。上から目線と子ども中心に、という点を変えていかないと大学の講義で終わりになる。</p>

<p>オブザーバー1</p>	<p>これまで講演中心だったものをできるだけ参加型に変えていったが、十分ではなかった。出発点が「触れる機会を」というのは上から目線のところがある。作品展をみて子ども達が興味をもてば素晴らしい力があるということを学ばせていただいた。</p>
<p>運営委員2</p>	<p>昨年の同時期に初めて「天地人SP」の同日開催をやるという決定がなされた。4月の半ばは各学校では春休み返上で年間指導計画を立ててこれから勉強をしよう、先生方の繋がりをつくっていこう、先生方が子ども達と繋がりをつくっていこうという計画開始の時期。9月にこのような行事を入れるのは障害物を置くようなもの。去年は何とか先生方の柔軟な対応でできた。その点を考慮してもらわないと協力できない。</p>
<p>運営委員1</p>	<p>○「天地人SP」講演会の課題について</p> <p>「天地人SP」は第1回から参加して面白く感じているが、講演会については佐渡市の課題を強く感じた。参加者の数と構成が偏っている。動員された高校生と事務局側が連れてきた大学生と、そこから年齢が開いて結構高齢の方という構成となっている。具体策は思いつかないが、課題として指摘したい。</p>
<p>オブザーバー1</p>	<p>昨年は、それぞれの会場が別々にイベントを行っている感じだったが、「子どものための科学祭り」「天地人SP」「佐渡塾」がいわば合同でやる形でお互い円滑に参加できるよう宣伝をしてはどうかと思う。</p>
<p>次長</p>	<p>閉会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校側では始業式・入学式後1週間程度を経過した。異動してきた理科担当の先生方も職場が変わり何とか授業を始めたばかりの時期である。 ○ 私も理科教員であったので、宇宙や生物という話題を聴いているだけでわくわくしてくる。 ○ 理科教育センターと天地人SPが中心となって同じコンセプトで理科への関心を高め、ひいては子ども達の意識を高めていければと思っている。